



とよとみひでよし 豊臣秀吉は、なぜ中国を征服しようとしたの せいふく



しょだいまよう 諸大名に分けあたえてやれる、新しい土地がほしかったからなど、いろいろな説があるんだよ。

豊臣秀吉が、中国を征服しようと考えたわけについては、特にこれという有力な説がありません。次にあげるのは、おもな説です。

諸大名に分けあたえてやれる、新しい土地がほしかったからか

それまでの諸大名は、戦争に備えて、自分の知行高（領地での米の取れ高）でまかなえる人数よりも多くの家来を、かかえていました。秀吉が天下を統一し、戦争がなくなると、家来への給料の支払いに困ることになりました。このままでは、大名はほかの大名の領地に手を出し、紛争が起きてしまいます。そこで秀吉は、「まもなく中国まで征服するだろう」と宣伝して、将来、日本の領土を広げるから、それまでは不満が残っても、自分に従わせるようにしていきました。そのため、天下統一を達成すると、中国征服を実行にうつした、という説です。

自分の力で、中国やインドも征服できる、と思っていたからか

秀吉は、世界の情勢を知らなかったようです。そのため、自分の力で、朝鮮・中国・琉球・台湾・フィリピンはもちろん、天竺（インド）までも征服できると思って、実行にうつした、という説です。

中国と貿易をして、利益を得たかったからか

秀吉は、中国を征服し、日中貿易で利益を得たかった、という説もあります。秀吉は、室町時代の勘合貿易を、復活させようとしたのですが、彼が考えていたのは、かつて行われた、日本が中国に貢ぎ物をおくる形の貿易（朝貢貿易）とは反対の、中国が日本に貢ぎ物をおくる形の貿易でした。そこで、対馬の宗義智を通じて、朝鮮・中国と話し合いをしようとしたのですが、相手にされませんでした。